

阿武隈川水系流域治水プロジェクト【位置図】

資料1

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

(案)協議会公表用

○ 令和元年東日本台風で阿武隈川本川からの越水・溢水のほか、支川での多数の氾濫や内水氾濫により甚大な被害が発生した阿武隈川水系では、阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに加え、流域からの流出を抑制する対策など、以下の取り組みを実施していくことで、国管理河川においては、戦後最大の令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

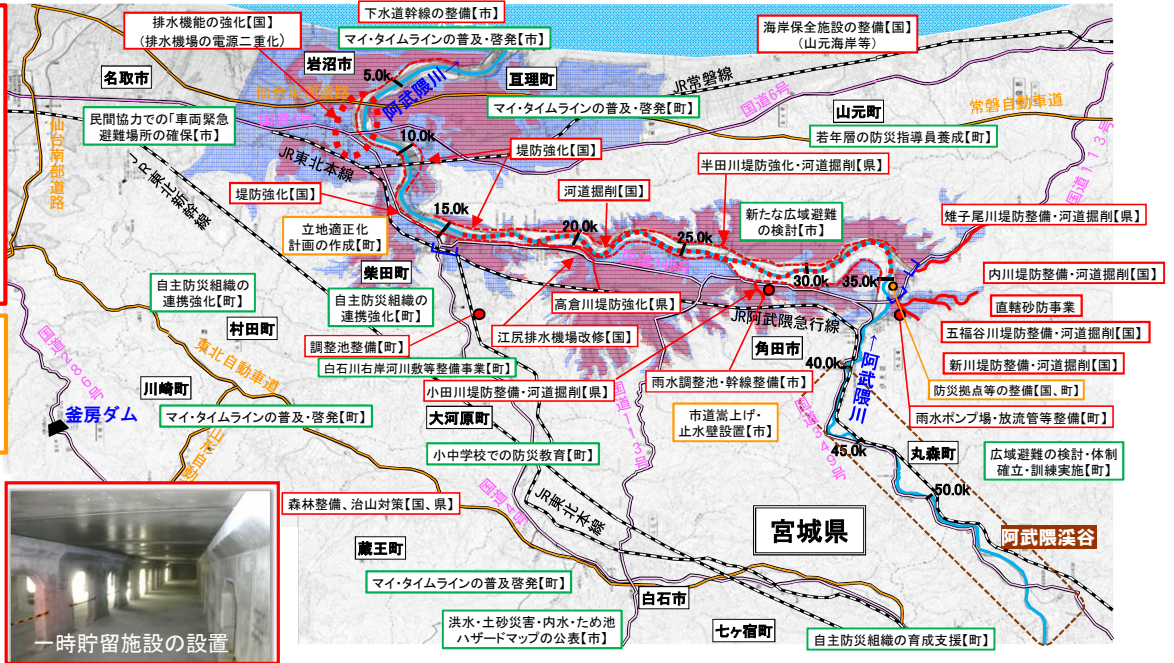
- 河川区域での対策
 - ・河道掘削、堤防整備、遊水地整備
 - ・千五沢ダム再開発
 - ・農業用排水機場整備
 - ・利水ダム等16ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者: 国、宮城県、福島県、沿川市町、東北電力(株)、土地改良区など)
- 集水域での対策
 - ・一時貯留施設の設置、雨水幹線の整備、水田貯留
 - ・森林整備、治山対策
 - ・海岸保全施設、砂防堰堤等の整備等

■ 被害対象を減少させるための対策

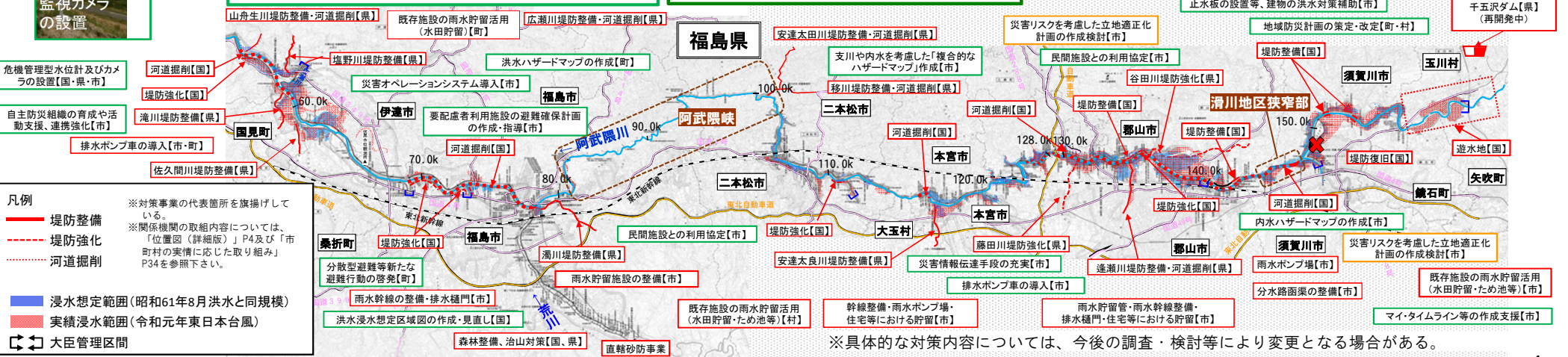
- 氾濫域での対策
 - ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の作成・検討
 - ・浸水拡大抑制に加え、避難経路確保にも資する市道の嵩上げ・止水壁設置等

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 氾濫域での対策
 - ・危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築
 - ・洪水浸水想定区域図の作成・見直し
 - ・ハザードマップの見直し
 - ・要配慮者利用施設も含めた避難確保計画策定及び訓練促進
 - ・「マイ・タイムライン」作成の普及促進
 - ・自主防災組織の設置促進と人材育成
 - ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」作成
 - ・水害リスク空白域の解消等



■ グリーンインフラの取組 詳細次ページから



- 凡例**
- 堤防整備
 - - - 堤防強化
 - 河道掘削
 - 浸水想定範囲(昭和61年8月洪水と同規模)
 - 実績浸水範囲(令和元年東日本台風)
 - ◁▷ 大臣管理区間
- ※対策事業の代表箇所を旗掲げしている。
※関係機関の取組内容については、「位置図(詳細版)」P4及び「市町村の実情に応じた取り組み」P34を参照下さい。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

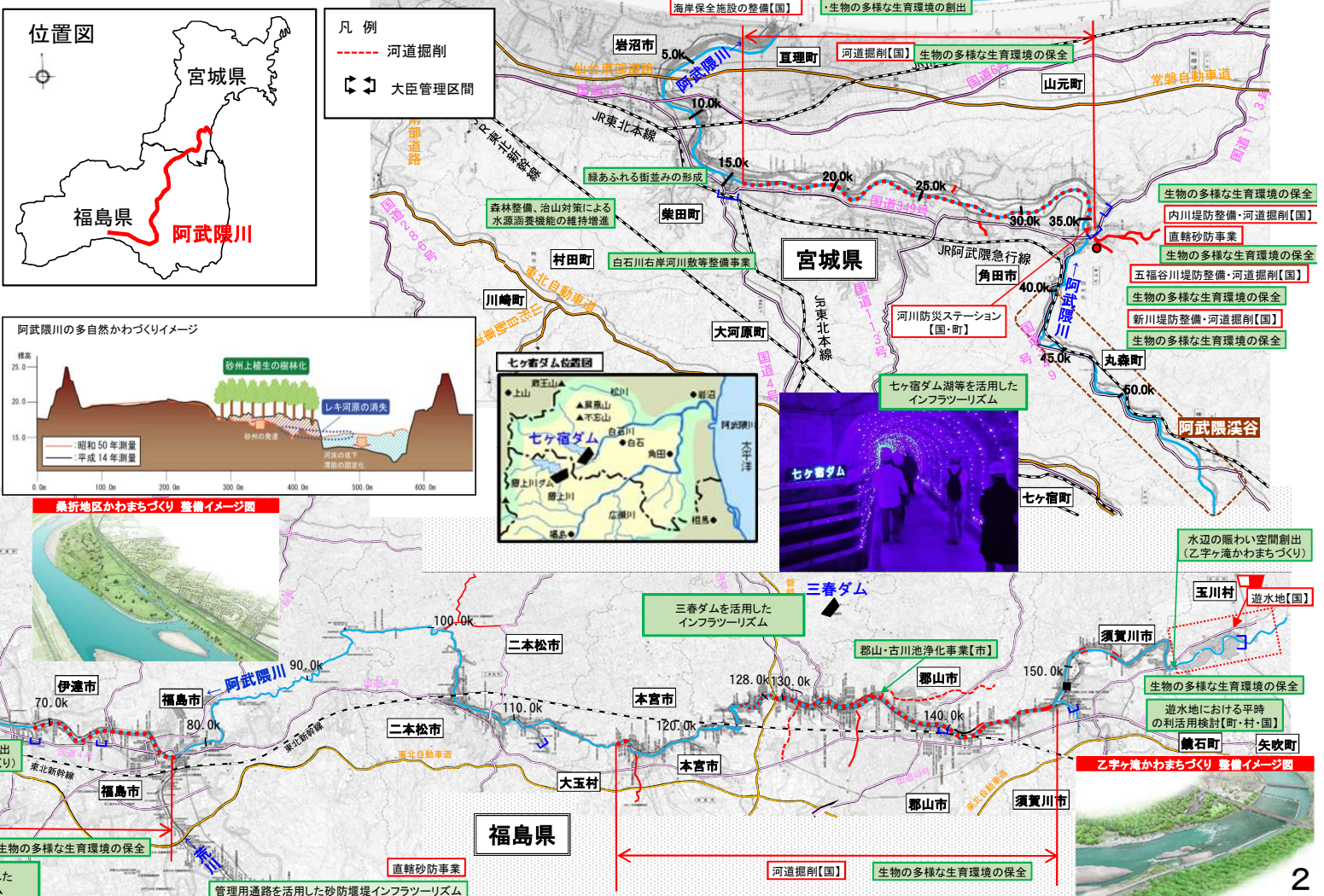
■グリーンインフラの取り組み『治水対策プロジェクトと連携した阿武隈川を軸とした地域の創出』

○阿武隈川は、流域には多くの自然公園を有し、日本の滝百選の「乙字ヶ滝」、福島県指定名勝及び天然記念物となっている阿武隈峡など、阿武隈川の自然環境が作り出す名勝地が各地に存在している。また、中流域、下流域の高水敷にはヨシ・オギ群落が生育し、また水域はアユやサケの産卵場となっており良好な自然環境を有している。また、令和元年東日本台風では大きな被害を受け、「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を踏まえた、築堤、河道掘削、遊水地整備等の様々な治水対策が概ね10年間で実施される。

○河道掘削や遊水地整備等の治水対策事業との連携を図り、多様な優れた自然環境を保全・創出し、また、阿武隈川と市街地、また周辺に点在する史跡や交流拠点間など、阿武隈川を軸とした地域間交流や参加・連携が期待できる水辺整備など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

■グリーンインフラメニュー

- 健全なる水循環系の確保
 - ・ 郡山・古川池浄化事業
 - ・ 森林整備、治山対策による水源涵養機能の維持増進
- 治水対策における多自然川づくり
 - ・ 生物の多様な生育環境の保全・創出
 - ・ 遊水地における平時の利活用検討(上流遊水地群)
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
 - ・ 乙字ヶ滝かわまちづくり・桑折地区かわまちづくり
 - ・ 白石川右岸河川敷等整備事業
 - ・ 緑あふれる街並みの形成
- 自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
 - ・ 小中学校における河川環境学習
 - ・ 管理用通路を活用した砂防堰堤インフラツーリズム(市連携)
 - ・ セッケダム、三春ダム、摺上川ダムを活用したインフラツーリズム
 - ・ 河川防災ステーションにおける平時の利活用
 - ・ 歴史的水防線の保全(荒川樹林帯)
 - ・ 水質日本一を育む荒川樹林帯周辺のクリーンアップ(地域住民)
 - ・ 阿武隈川サミット
- 【全域に係る取組】
 - ・ 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全
 - ・ 水質の保全
 - ・ 良好な景観の保全・創出
 - ・ 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

阿武隈川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

(案)協議会公表用

- 阿武隈川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】令和元年東日本台風の被害箇所における堤防整備等や阿武隈川全川での水位低下を目的とした河道掘削を主に実施するとともに、浸水リスクを考慮した立地適正化計画の作成等により治水対策と連携した防災・減災まちづくりについて検討する。
 - 【中期】阿武隈川本川からの越水被害を防ぐため、上流遊水地の整備を実施するとともに、要配慮者利用施設の避難確保計画やタイムライン等の策定等により、避難体制の強化を図る。
 - 【中長期】浸水被害を防ぐため、支川を含めたさらなる堤防強化や河道掘削等を実施し、流域全体の安全度向上を図るとともに、訓練促進や人材育成等、ソフト施策等の更なる拡充により、より確実な避難体制の構築を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、宮城南部復興事務所、福島県、宮城県	直轄区間完了(福島河川国道事務所・仙台河川国道事務所)		
	堤防整備	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、宮城南部復興事務所、福島県、宮城県			
	遊水地整備	福島河川国道事務所	上流遊水地群完成(福島河川国道事務所)		
	砂防堰堤等の整備	福島河川国道事務所、宮城南部復興事務所、福島県、宮城県			
	海岸保全施設の整備	仙台河川国道事務所			
	雨水幹線の整備	市町村			
	利水ダム等における事前放流・体制構築	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、阿武隈土地改良調査管理事務所、福島県、宮城県、市町村、等	利水ダム等における事前放流・体制構築		
	千五沢ダム再開発	福島県	千五沢ダム再開発事業完了(福島県)		
	農業用排水機場整備	阿武隈土地改良調査管理事務所、宮城県、福島県	農業用排水機場整備(阿武隈土地改良調査管理事務所)		
	森林整備・治山対策	林野庁、宮城県、福島県、森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	防災拠点等の整備	国、市町村	丸森地区河川防災ステーション等整備(仙台河川国道事務所、丸森町)		
	浸水リスクを考慮した立地適正化計画の作成・検討	市町村	立地適正化計画の作成・検討(郡山市・白河市・須賀川市・田村市・栗田町)		
	浸水拡大抑制に加え、避難経路確保にも資する市道の嵩上げ・止水壁設置等	市町村	止水壁設置等(角田市)		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、福島県、宮城県、市町村	危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築		
	ハザードマップの見直し	市町村	ハザードマップの見直し		
	要配慮者利用施設の避難計画策定及び訓練促進	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、福島県、宮城県、市町村	要配慮者利用施設の避難計画策定及び訓練促進		
	「マイ・タイムライン」作成の普及促進	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所、福島県、宮城県、市町村	「マイ・タイムライン」作成の普及促進		
	自主防災組織の設置促進と人材育成	福島県、宮城県、市町村	自主防災組織の設置促進と人材育成		
	支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」作成	市町村	支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」作成		
グリーンインフラ	郡山・古川池浄化事業	市町村			
	森林整備・治山対策による水源涵養機能の維持増進	林野庁、宮城県、福島県、森林整備センター			
	生物の多様な生育環境の保全	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所			
	遊水地における平時の利活用検討(上流遊水地群)	福島河川国道事務所、市町村			
	乙字ヶ滝かわまちづくり・桑折地区かわまちづくり	福島河川国道事務所、市町村			
	白石川右岸河川敷等整備事業	市町村			
	緑あふれる街並みの形成	市町村			
	小中学校における河川環境学習	福島河川国道事務所			
	管理用通路を活用した砂防堰堤インフラツーリズム(市連携)	福島河川国道事務所、市町村			
	セツ宿ダム、三春ダム、揖上川ダムを活用したインフラツーリズム	福島河川国道事務所、仙台河川国道事務所			



【事業費（R2年度以降の残事業費）】

- 河川対策
全体事業費 約2,700億円 ※1
対策内容 河道掘削、堤防整備、遊水地整備、千五沢ダム再開発 等
- 砂防対策
全体事業費 約260億円 ※2
対策内容 砂防堰堤等の整備 等
- 下水道対策
全体事業費 約230億円 ※3
対策内容 雨水幹線の整備 等
- 海岸対策
全体事業費 約350億円 ※4
対策内容 海岸保全施設整備

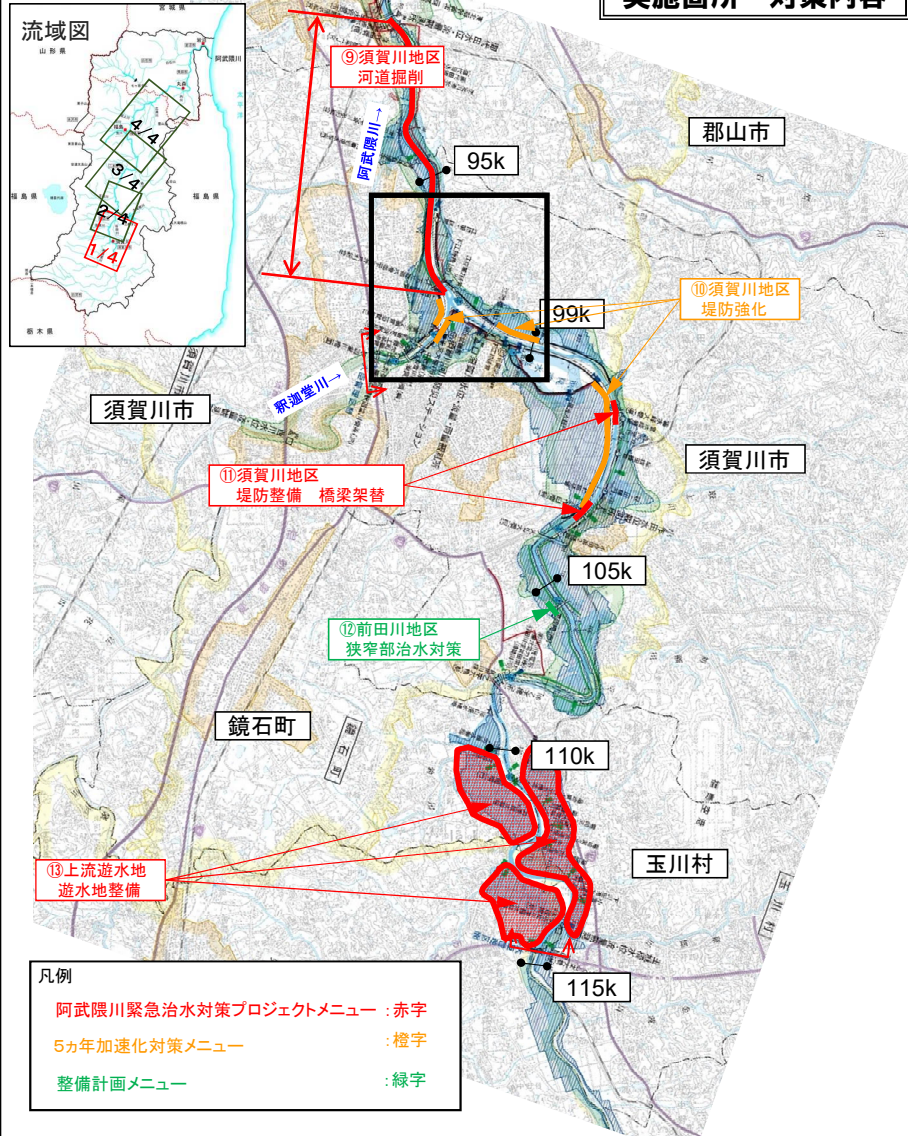
※1: 遊撃及び各河川の立地適正化計画の事業費を記載
※2: 遊撃砂防事業の事業費を記載
※3: 遊撃下水道事業の事業費を記載
※4: 遊撃海岸保全事業の事業費を記載

短期整備(阿武隈川緊急治水対策プロジェクト)効果：河川整備率※ 約69%→約99%

※河川整備計画(H24変更)の目標とする昭和61年洪水と同規模の洪水を安全に流すために必要な流下能力(洪水を安全に流す河道の器)で整理

○大規模災害関連事業の河道掘削の進捗により、令和元年10月の東日本台風と同規模の洪水に対して、家屋の浸水被害の軽減が図られる。

実施箇所・対策内容



リスクマップ検討中

区分	対策内容	実施箇所	工程		
			短期(R2～R7年)	中期(R8～R10年)	中長期(R11～R17)
河道掘削		① 伊達地区	100%		
		② 福島地区	100%		
		⑥ 本宮地区	100%		
		⑧ 郡山地区	100%		
		⑨ 須賀川地区	100%		
狭窄部治水対策		③ 黒岩飯野地区	20%	100%	
		④ 東和安達地区		100%	
		⑤ 白沢下流地区	10%	100%	
		⑦ 白沢上流地区	10%	100%	
堤防強化		⑩ 須賀川地区	100%		
		⑪ 須賀川地区	63%	100%	
堤防整備		⑪ 須賀川地区	63%	100%	
		⑬ 上流遊水地	45%	100%	

【短期整備完了時の進捗】
 ⑨ 須賀川地区 河道掘削 0%→100%
 ⑩ 須賀川地区 堤防強化 0%→100%
 ⑪ 雲水峰地区 堤防整備 橋梁架替 0%→63%
 ⑫ 前田川地区 狭窄部治水対策 0%→10%
 ⑬ 上流遊水地 遊水地整備 0%→45%

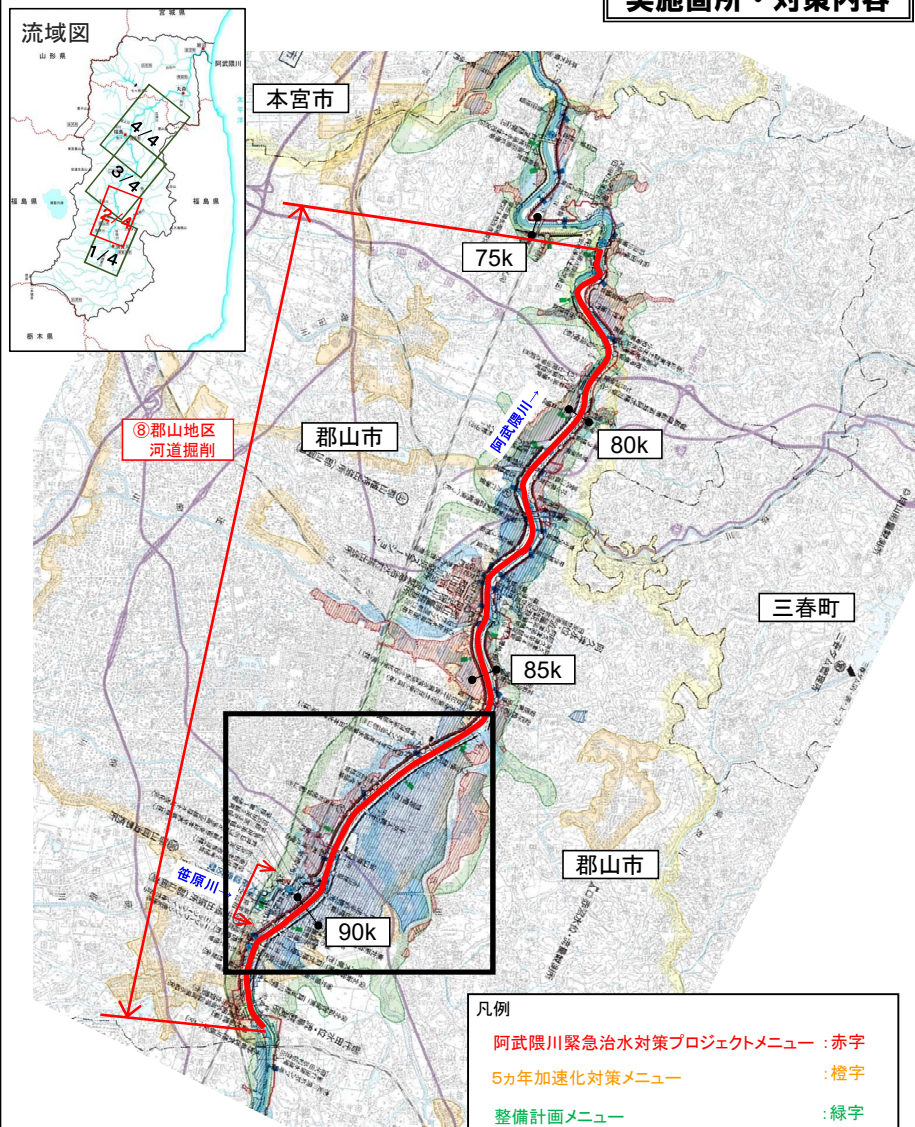
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

短期整備(阿武隈川緊急治水対策プロジェクト)効果：河川整備率※ 約69%→約99%

※河川整備計画(H24変更)の目標とする昭和61年洪水と同規模の洪水を安全に流すために必要な流下能力(洪水を安全に流す河道の器)で整理

○大規模災害関連事業の河道掘削の進捗により、令和元年10月の東日本台風と同規模の洪水に対して、家屋の浸水被害の軽減が図られる。

実施箇所・対策内容



リスクマップ検討中

区分	対策内容	実施箇所	工程		
			短期(R2～R7年)	中期(R8～R10年)	中長期(R11～R17)
河道掘削		①伊達地区	100%		
		②福島地区	100%		
		⑥本宮地区	100%		
		⑧郡山地区	100%	100%	
		⑨須賀川地区	100%	100%	
狭窄部治水対策		③黒岩飯野地区	20%	100%	
		④東和安達地区		100%	
		⑤白沢下流地区	10%	100%	
		⑦白沢上流地区	10%	100%	
堤防強化		⑩須賀川地区	100%		
		堤防整備	63%	100%	
橋梁架替		⑪須賀川地区	63%	100%	
		遊水地整備	45%	100%	

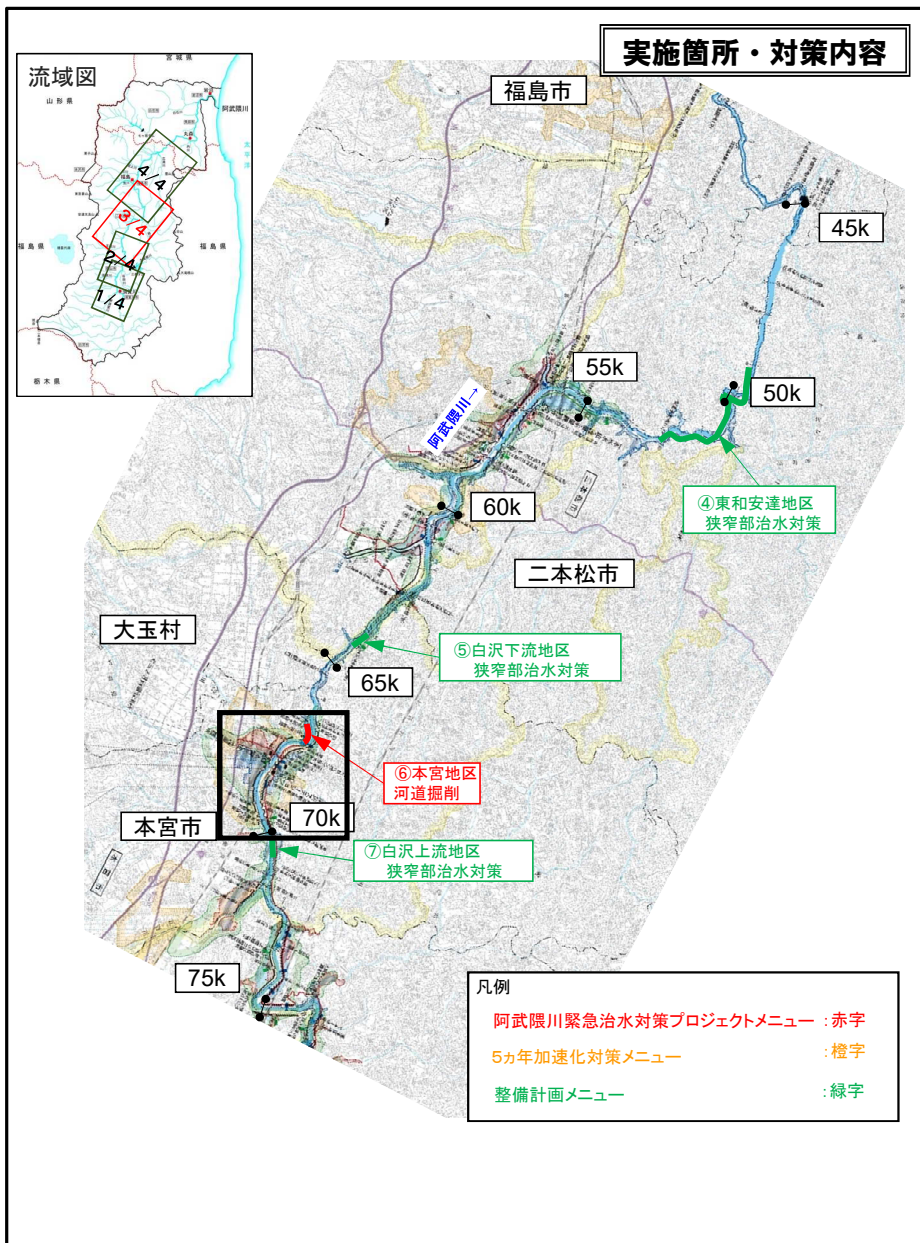
【短期整備完了時の進捗】
⑧郡山地区 河道掘削
0%→100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

短期整備(阿武隈川緊急治水対策プロジェクト)効果：河川整備率※ 約69%→約99%

※河川整備計画(H24変更)の目標とする昭和61年洪水と同規模の洪水を安全に流すために必要な流下能力(洪水を安全に流す河道の長さ)で整理

○大規模災害関連事業の河道掘削の進捗により、令和元年10月の東日本台風と同規模の洪水に対して、家屋の浸水被害の軽減が図られる。



リスクマップ検討中

区分	対策内容	実施箇所	工程		
			短期(R2～R7年)	中期(R8～R10年)	中長期(R11～R17)
河道掘削		①伊達地区	100%		
		②福島地区	100%		
		⑥本宮地区	100%		
		⑧郡山地区	100%	100%	
		⑨須賀川地区	100%	100%	
		③黒岩飯野地区	20%	100%	
		④東和安達地区			100%
		⑤白沢下流地区	10%	100%	100%
		⑦白沢上流地区	10%	100%	100%
狭窄部治水対策		②前田川地区	10%	100%	100%
		④須賀川地区	100%		
		⑩堤防整備	63%	100%	100%
		⑪橋梁架替	63%	100%	100%
遊水地整備		⑬上流遊水地	45%	100%	100%

【短期整備完了時の進捗】

④東和安達地区 狭窄部治水対策 0%→0%

⑤白沢下流地区 狭窄部治水対策 0%→10%

⑥本宮地区 河道掘削 0%→100%

⑦白沢上流地区 狭窄部治水対策 0%→10%

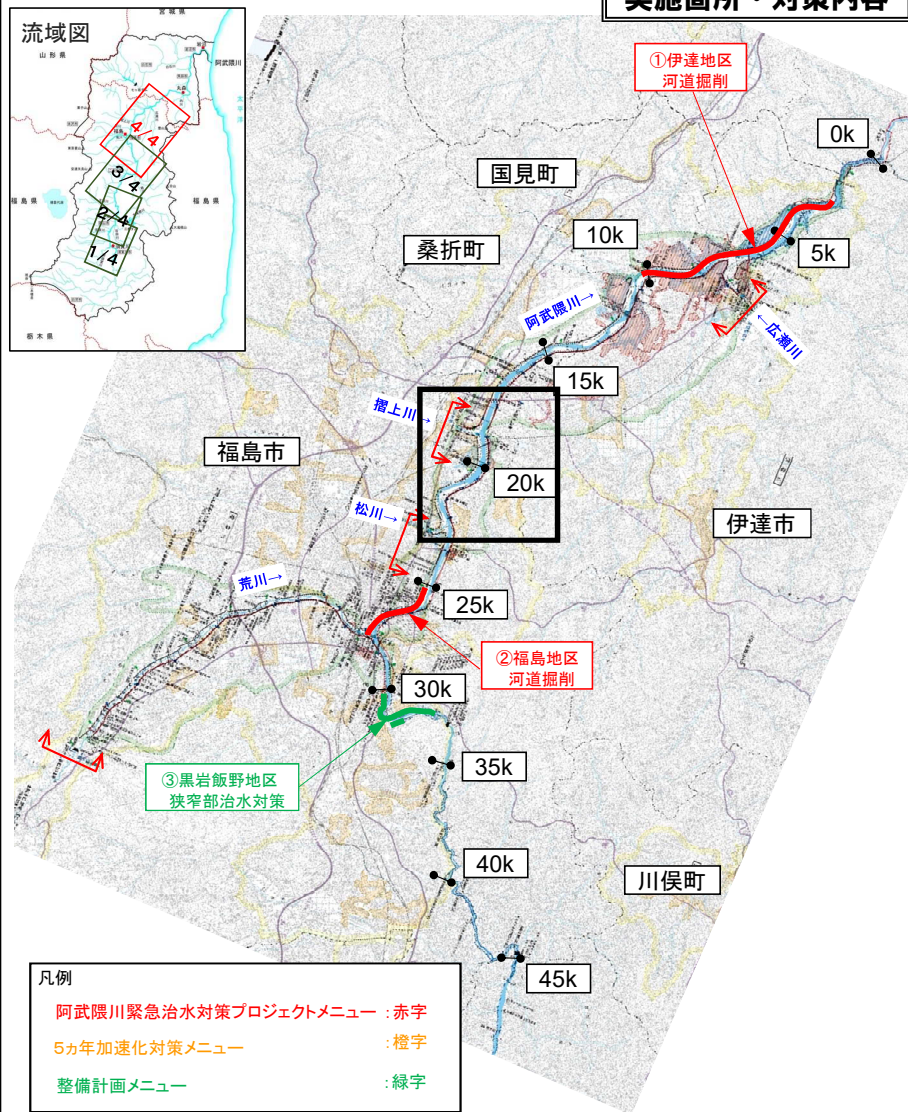
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

短期整備(阿武隈川緊急治水対策プロジェクト)効果：河川整備率※ 約69%→約99%

※河川整備計画(H24変更)の目標とする昭和61年洪水と同規模の洪水を安全に流すために必要な流下能力(洪水を安全に流す河道の器)で整理

○大規模災害関連事業の河道掘削の進捗により、令和元年10月の東日本台風と同規模の洪水に対して、家屋の浸水被害の軽減が図られる。

実施箇所・対策内容



リスクマップ検討中

区分	対策内容	実施箇所	工程			
			短期(R2～R7年) R3	中期(R8～R10年)	中長期(R11～R17)	
河道掘削		① 伊達地区	100%			
		② 福島地区	100%			
		⑥ 本宮地区	100%			
		⑧ 郡山地区	100%			
		⑨ 須賀川地区	100%			
狭窄部治水対策		③ 黒岩飯野地区	20%	100%		
		④ 東和安達地区			100%	
		⑤ 白沢下流地区	10%		100%	
		⑦ 白沢上流地区	10%		100%	
		⑫ 前田川地区	10%		100%	
		堤防強化	⑩ 須賀川地区	100%		
		堤防整備		⑪ 須賀川地区	63%	
橋梁架替	⑬ 上流遊水地			63%		100%
遊水地整備		⑬ 上流遊水地	45%		100%	

【短期整備完了時の進捗】
 ① 伊達地区 河道掘削 0%→100%
 ② 福島地区 河道掘削 0%→100%
 ③ 黒岩飯野地区 狭窄部治水対策 0%→20%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

阿武隈川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

(案)協議会公表用

戦後最大洪水等に対応した河川の整備率



集計中

農地・農業用施設の活用



集計中

流出抑制対策の実施



集計中

山地の保水機能向上・土砂・流木対策



集計中

立地適正化計画における防災指針の作成



集計中

水害リスク情報の提供



集計中

高齢者等避難の実効性の確保



集計中

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

令和元年東日本台風時の状況



1 2 3

① ② ③

① 尾袋川から左開地区へ越水

② 左開地区で越水

③ 指定避難所への移動が困難となったもの

【宮城県 角田市】

○市道 駅前花鳥線に越水対策工事(止水壁)を設置し、尾袋川からの越水対策を実施することで左開地区への越水流入を防ぎ、避難経路を確保する対策を実施しています。

③ 市道 駅前花鳥線に越水対策工事(止水壁)を構築し、地域住民の安全・安心を確保する。



止水壁工 尾袋川からの越水を防止し、避難経路を確保する。

市道 駅前花鳥線

左開地区

尾袋川

100cm

避難経路の確保

【福島県 福島市】

○市内を流れる普通河川被川において、上流部の土地利用変化や、流末にあたる雨水渠が未整備区間のため、大雨による浸水被害が発生していたため、浸水多発地区に雨水一時貯留施設(貯留量 V=約500m³)を設置し、浸水対策を実施しています。

被川 浸水状況

2019年7月24日撮影



年度別浸水回数(令和3年4月1日現在)

年度	浸水回数
令和3年度	1
令和2年度	1
令和1年度	1
令和0年度	1
令和元年度	1
令和元年度	1
令和元年度	1

雨水一時貯留施設の概要



雨水一時貯留施設 施工状況

雨水一時貯留施設 竣工状況

施工箇所 福島市菅根田町 地内貯留量 V=約500m³

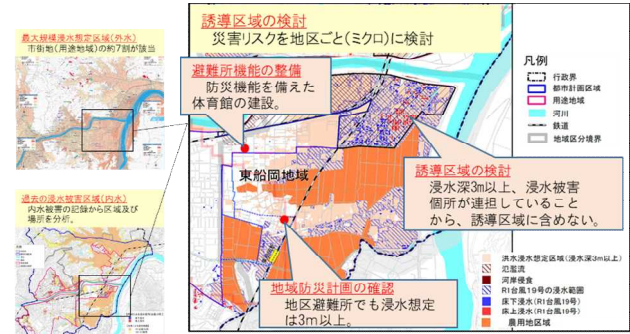
被害対象を減少させるための対策

【宮城県 柴田町】

○令和4年中に立地適正化計画の公表予定

○防災に対する方針等をまとめた防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた誘導区域を検討中

最大規模での浸水被害と過去の浸水(内水)被害の両面で災害リスクを詳細に分析し、地域防災計画の検証を行いながら、誘導区域を設定し安全・安心で快適なコンパクトな市街地の誘導・形成を目指す。



誘導区域の検討 災害リスクを地区ごと(マイクロ)に検討

避難所機能の整備 防災機能を備えた体育館の建設

東船岡地域

誘導区域の検討 浸水深3m以上、浸水被害個所が連担していることから、誘導区域に含めない。

地域防災計画の検証 地区避難所でも浸水想定は3m以上。

凡例

- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地区区分境界

浸水想定区域(浸水深3m以上)

避難所

河川

浸水深3m以上の浸水範囲(過去浸水(19年台風19号) 浸水深1m(19年台風19号) 浸水深3m以上(19年台風19号))

農用地区域

立地適正化計画における居住誘導区域内での防災指針の策定(白河市)

野原上の課題と防災対策の取組の方向性



● 居住誘導区域

● 用途地域

● 2.5.5 緊急避難区域

● 浸水想定区域(河津浸水)

● 浸水深3m以上(30m)

● 30-50m

● 50-10m

● 10-5m

● 3m以上

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

【宮城県 柴田町】

○地域における講習会等によりマイ・タイムラインや避難確保計画作成の普及、防災リーダーの育成等を通じて、地域防災力の向上を図る



3つのSTEPでマイ・タイムライン作成

STEP1 水害リスクの特定

STEP2 川の歴史 川の歴史を調べ 備えの行動を整理

STEP3 マイ・タイムラインの作成

資料1 資料2

作成シート

気象予報士から学ぶマイ・タイムライン講習会(柴田町)

災害時の一人ひとりの適切な避難行動を普段から考えてもらう取組み(マイ避難ノートの配布)

平常時・洪水時の河川状況や河川水位の上昇等を把握できるよう、YouTubeライブ配信を開始

福島県河川国道事務所
Fukushima Office of River and National Highway

→ 防災 → 河川

→ 砂防 → 道路

→ 入札・契約情報

事務所概要

- 組織一覧及び連絡先
- 所在地
- 沿革
- お役所利用のしるし
- 福島河川国道事務所公式Twitter

YouTube 福島県河川国道事務所



8

阿武隈川水系流域治水プロジェクト【位置図（詳細版1／2）】

（案）協議会公表用

河川等の浚渫・掘削(福島市、郡山市、二本松市)

移動式排水ポンプ車の導入(伊達市、国見町、本宮市)

雨水貯留施設の整備(福島市、郡山市)

雨水排水ポンプの更新、増強
(県、郡山市、二本松市、伊達市、国見町)

災害時の内水排水体制の強化(福島市)

利水ダム等における事前放流等の実施、体制構築
(国、県、沿川市町村、東北電力、土地改良区等)

既存施設の雨水貯留活用(水田貯留)、ため池等
(県、郡山市、桑折町、大玉村)

雨水貯留抑制施設の設置費用補助(郡山市)

森林整備・治山対策
(林野庁、福島県、森林整備センター)

災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成・検討
(郡山市、田村市)

カメラ・水位計の設置(国、県、福島市、郡山市、伊達市)

洪水浸水想定区域図の作成・見直し(国)

マイタイムラインの作成(本宮市)

洪水ハザードマップの作成・改訂・周知
及び防災教育の推進(郡山市、川俣町、田村市)

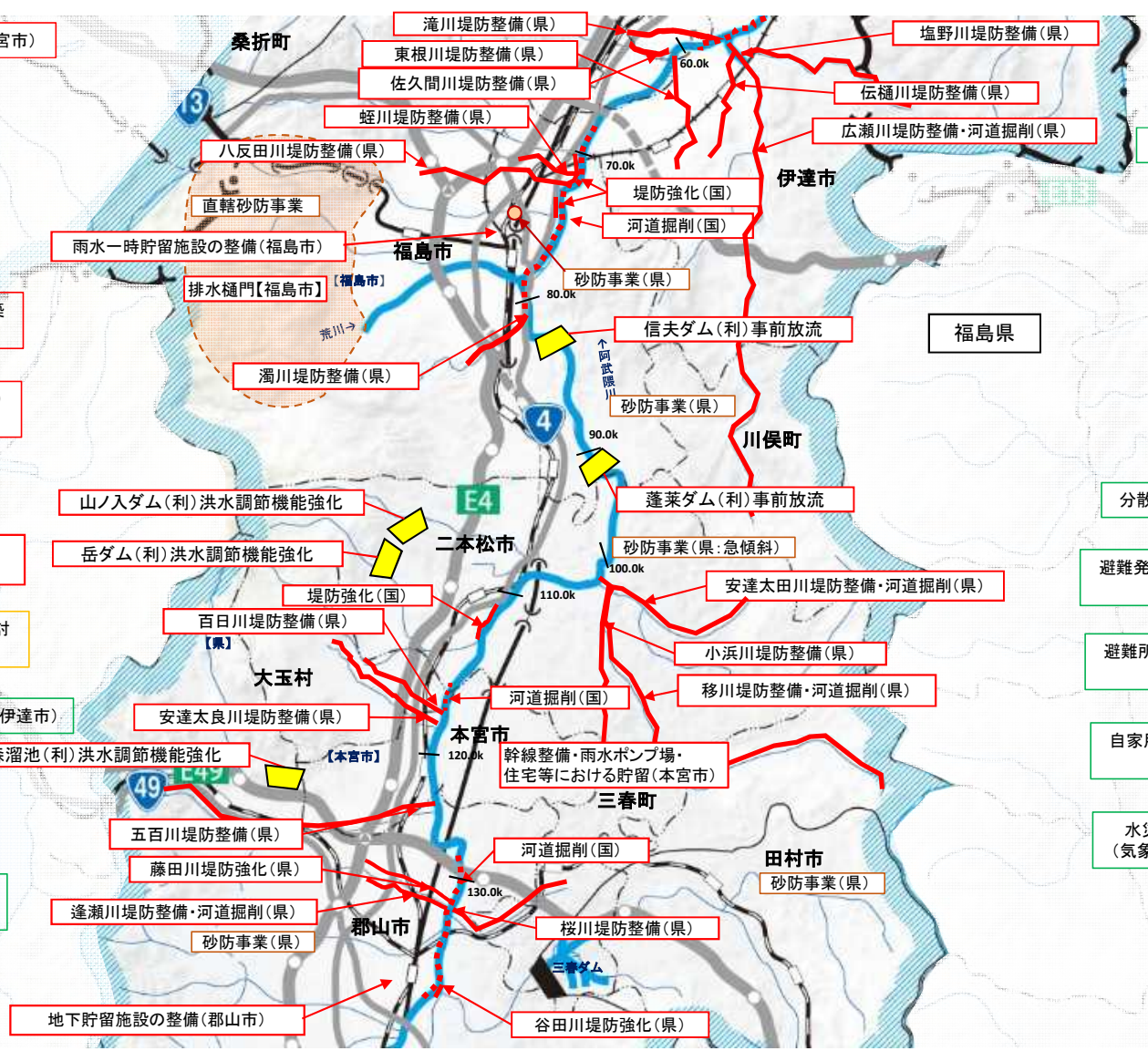
支川や内水を考慮した「複合的な
ハザードマップ」作成(本宮市)

内水ハザードマップの作成(福島市)

まるごとまちごとハザードマップ等による
地域住民等への洪水情報の普及(福島市、伊達市)

ダム下流浸水想定図作成(国)

マイ・タイムライン等の作成支援・講習会の実施(国、県、郡山市)



要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・指導
(福島市)

災害オペレーションシステム導入(福島市、伊達市)

災害情報伝達手段(避難誘導看板等の
多言語表記等)の充実(郡山市、本宮市)

災害情報ツールの多重化
(県、福島市、伊達市、本宮市、川俣町、三春町)

地域防災計画の策定・改定(本宮市)

地区防災計画の検討・策定(福島市、三春町)

分散型避難等新たな避難行動の啓発(桑折町、三春町)

避難発令、避難所開設のタイミング、エリア等について検討
(伊達市、三春町)

避難所の安全性や居住性の確保、民間施設との利用協定
(二本松市、本宮市、三春町)

自家用車による避難場所の確保、民間施設との利用協定
(郡山市)

水災害を想定した訓練等による市民の防災意識の向上
(気象庁、県、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、田村市)

自主防災組織の育成や活動支援、連携強化
(二本松市、伊達市、本宮市、大玉村)

地域防災リーダーの育成(郡山市、三春町)

止水板の設置等、建物の洪水対策補助(郡山市)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

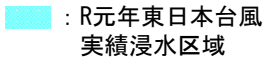
阿武隈川水系流域治水プロジェクト

福島県側の対策内容(代表ブロック)

伊達ブロック 流域治水概要

【実施主体：国、県、市】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、ソフト対策等の充実により、伊達ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。

凡例
 : R年東日本台風実績浸水区域



福島ブロック 流域治水概要

【実施主体：国、県、市】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、市街地の貯留施設整備など市の水害対策パッケージ施策により、福島ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。

凡例

：R元年東日本台風
実績浸水区域



本宮ブロック 流域治水概要

【実施主体：国、県、市】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、ソフト対策等の充実により、本宮市ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。



郡山ブロック 流域治水概要

【実施主体:国、県、市、大学、企業】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、市街地の貯留施設整備や災害リスクを考慮したまちづくりにより、郡山ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。



須賀川ブロック 流域治水概要

【実施主体:国、県、市、大学】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、市街地の雨水幹線整備や災害リスクを考慮したまちづくりにより、須賀川ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。

